

# クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 年次報告書

2021年度

Creative Commons Japan Annual Report  
2021

CCJP事務局  
2022/09/19 公開



この年次報告書はCC BY 4.0国際 (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>) で提供されています。

著作者の明示があるセクションの文章はその者が、著作者の表示のないセクションの文章はNPO法人コモンズフィアが著作者となっています。画像は紹介対象となっているウェブサイト、報告書などの著作権者の著作物です。

# ご挨拶

クリエイティブ・コモンズ・ジャパン（以下CCJP）は特定非営利活動法人コモンスフィアを組織的な母体として活動するプロジェクトです。日本でクリエイティブ・コモンズ・ライセンス（以下CCライセンス）の開発への参加や翻訳、普及支援などの活動を行っており、ボランティアによって運営されています。

この年次報告書では、CCJPおよびグローバルのクリエイティブ・コモンズの組織（以下グローバルCC）の活動をご紹介します。最後に2022年3月期の会計報告と寄付のお願いも記載しています。ぜひ一度ご覧いただけたら幸いです。

CCJPでは、活動を共にしていただける事務局メンバーも随時募集しております。お手伝いして頂く内容は、CCライセンスの日本法とのすり合わせ、CCライセンスを利用したいユーザへのサポート、各種イベントやプロジェクトの企画運営、取材対応、事務管理等、多様です。具体的な内容は、ご経験やご興味に応じてご相談させていただきます。CCJPのメンバーとして活動をご希望される方は、info@creativecommons.jpまでご連絡下さい。

# 目次

I. CCJP(Creative Commons Japan)の概要と 最近の活動報告	4
1. CCJPの沿革	4
2. CC(Creative Commons)ライセンスとは	4
3. ここ最近の主な活動内容	5
① お問い合わせ対応	5
② FAQ改定	5
③ 勉強会の開催	5
④ ブログ記事掲載	5
⑤ 講演や執筆の依頼への対応	5
II. グローバル CC 活動紹介	6
1. CC Global Summit 2021が開催	6
2. SOTC (State of the Commons) 2021の発行	7
3. CC SearchがOpenverseに切り替え	8
III. NFTとシェア、クリエイティブ・コモンズ	9
IV. デジタル・アーカイブ分野での議論への参加	11
V. 「The Open Revolution」 日本語翻訳版を公開	12
VI. 会計報告と寄付のお願い	14
1. 会計報告	14
2. 寄付のお願い	14

# I. CCJP (Creative Commons Japan) の概要と 最近の活動報告

執筆：CCJP理事長 渡辺智暁

CCJP (Creative Commons Japan) はNPO法人コモンズフィアを母体とする団体名でありプロジェクト名です。Chapterと呼ばれるCreative CommonsのGlobal Networkの一組織であり、全世界的な繋がりの中に位置付けられながらも、日本独自の活動も行なっています。

## 1. CCJPの沿革

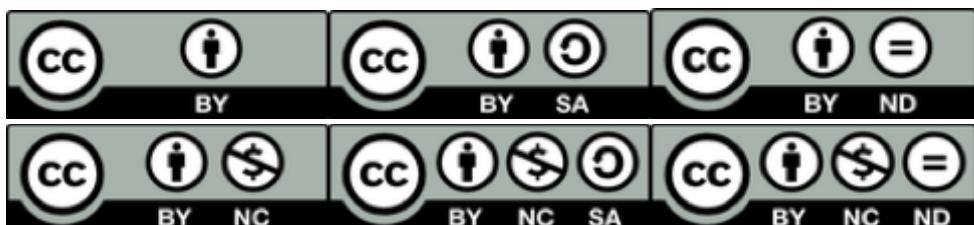
- ・2001年：米国でローレンス・レッシング等を中心にNPO法人が設立される。
- ・2002年：最初のバージョンとなるCCライセンスがリリースされる
- ・2003年：国際大学GLOCOMをホストとしてCCJP準備会を立ち上げ
- ・2004年：CC2.1日本版をリリース（世界で米国に次いで2番目）
- ・2006年：NPO法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン設立
- ・2008年：iCommons Summit 2008が札幌で開催される
- ・2013年：法人名称をクリエイティブ・コモンズ・ジャパンからコモンズフィアに変更
- ・2015年：現在の最新バージョンとなるCC4.0日本語版及びCC0日本語版をリリース

## 2. CC(Creative Commons) ライセンスとは

CCライセンスとはインターネット時代のための新しい著作権ルールで、作品を公開する作者が「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません」という意思表示をするためのツールです。CCライセンスを利用することで、作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができます、受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどすることができます。

現在のCCライセンスの最新バージョンは4.0で6種類のライセンスが用意されています。またこれとは別に、全ての著作権を放棄する意思表示を行うCC0というツールもあります。

CCライセンスは世界各国で活用されており数十億の作品にCCライセンスが利用されています。美術館や博物館での事例や政府での活用事例など幅広い分野で利用されています。



ライセンスの詳細はHPをご覧下さい。<sup>1</sup>

<sup>1</sup>CCJP HP CCライセンスの紹介：<https://creativecommons.jp/licenses/>

### 3. ここ最近の主な活動内容

CCJPでは毎月定例のミーティングを行うほか、下記のような活動を継続して行なっています。

#### ① お問い合わせ対応

CCJPでは、相談窓口に寄せられるCCライセンスに関するご質問などに対する対応を行っています。主にCCライセンスを利用する際の疑問点などに関して情報提供を行っています。従来よりフリー素材の利用やマスマスメディアでの画像利用などについてのお問合せが多くなったところ、最近では学術誌のオープンアクセスに関するお問合せを頂くことも増えてまいりました。なお、弁護士などにお願いすることが望ましい法律相談はお問い合わせ対応では受け付けていません。<sup>2</sup>

#### ② FAQ改定

CCJPではHPにCCライセンスに関するFAQを掲載し情報提供を行っています。FAQではCCの活動やCCライセンスの仕組みなどの基本情報から、自分の作品にCCライセンスをつける場合や、CCライセンスの付いた作品を利用する場合など、利用に関する様々なカテゴリごとにFAQを掲載しており、状況に応じて随時改定を行なっています。<sup>3</sup>

#### ③ 勉強会の開催

CCJPでは月例ミーティングに加えて時折勉強会も開催しています。直近では、NFTに関する公開勉強会をオンラインで開催いたしました。

#### ④ ブログ記事掲載

ここ最近のCCJPのHPではGlobalのブログ記事の中から目を引くものを選び翻訳し紹介しています。またCCライセンスの活用事例の紹介なども行なっています。

#### ⑤ 講演や執筆の依頼への対応

CCJPでは依頼があった際には講演、執筆なども行なっています。2021年度には、8月に大手企業さまに「シェア、CCライセンスと音楽関連諸分野の未来」というタイトルで、12月にコモンズフィア理事長の渡辺智暁が「オープンアクセス時代の学術情報流通とCCライセンス」というタイトルで精密工学会北陸信越支部に、講演をさせて頂きました。<sup>4</sup>

---

<sup>2</sup> CCJPのHPでのお問い合わせ窓口：<https://creativecommons.jp/contact/>

<sup>3</sup> FAQ よくある質問と回答：<https://creativecommons.jp/faq/>

<sup>4</sup> 発表資料は以下でご覧・入手頂けます。[https://docs.google.com/presentation/d/1wyaGX-LMUuhVmRxo07y1FE\\_FBP-\\_uFZ/edit](https://docs.google.com/presentation/d/1wyaGX-LMUuhVmRxo07y1FE_FBP-_uFZ/edit)

# I I. グローバル CC 活動紹介

執筆：CCJP事務局 前川充

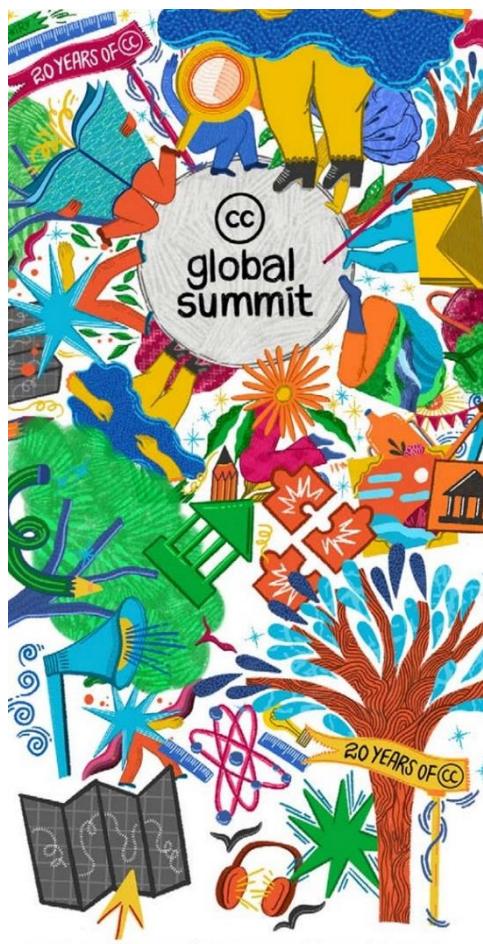
## 1. CC Global Summit 2021が開催

年次大会である「CC Global Summit 2021」がコロナ禍のため2021年9月にオンライン開催されました。90カ国以上から1600人以上が参加し、172のセッションが実施されました。特に、2001年に発足したCreative Commonsの活動が20周年を迎えたことが祝福されました。

キーノートスピーカーとしてCC創設者であるローレンス・レッシングが、CCの活動の中心が「シェア（共有）」であることを改めて痛感し、20年の間に自分が思っていた以上にCCライセンスが普及したこと、大学に身を置く研究者である自分にとって社会変革のリアルな行動に結びついたCCの活動は人生にとって最大の出来事となったとスピーチしました。

また、キーノートスピーカーとして台湾のデジタル担当大臣のオードリー・タンが、台湾政府としてCC-BY、もしくはCC-BY-SAで情報公開を法制化したことや、目的に向かって個人の集合体が知的作業を行うにあたってCCライセンスが有効であるとスピーチしました。

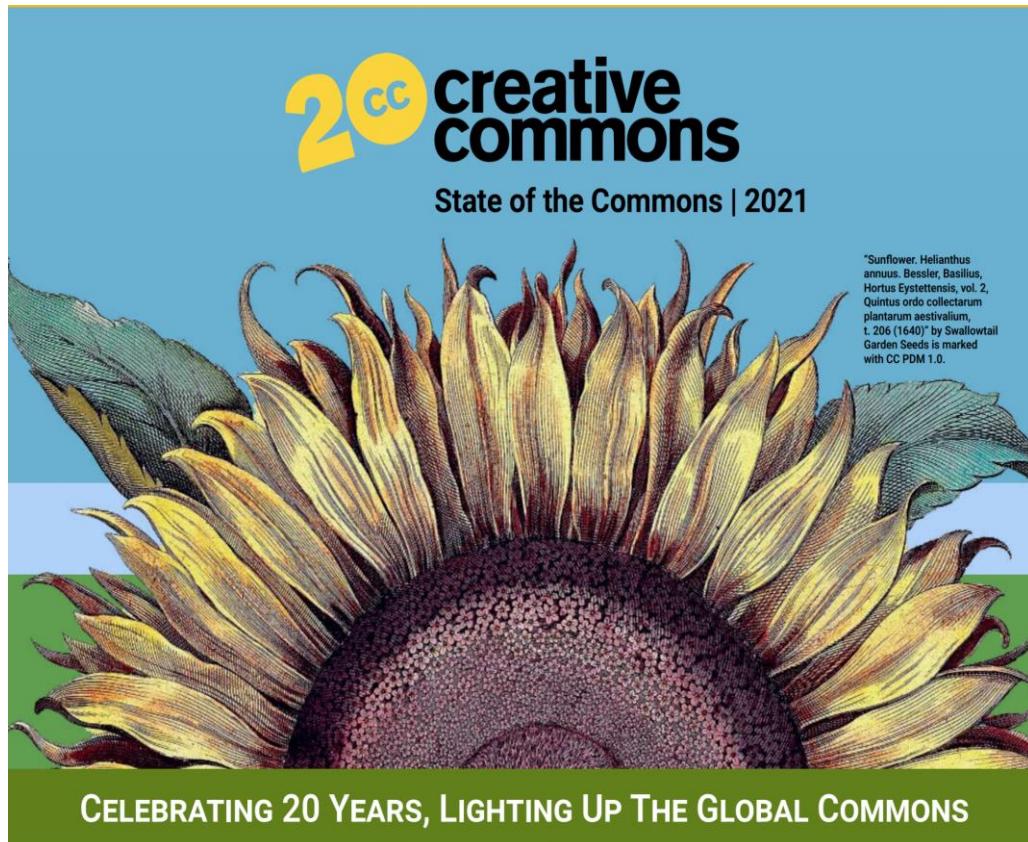
発表セッションでは、NFT（Non-Fungible Token、非代替性トークン）がデジタル作品に唯一性と希少価値を保証することで、新たな創作活動と流通、CCライセンスとの相互利用の可能性を訴求する発表がありました。



Artwork: Sonaksha Iyengar (<https://www.sonaksha.com/>), CC BY 4.0

## 2. SOTC (State of the Commons) 2021の発行

前年の一年間のグローバルでのCC活動を報告する年次報告書「State of the Commons 2021」が2022年4月に発行されました。<sup>5</sup>



2001年12月19日に発足したCreative Commonsの活動開始から20年を迎えたことを祝す内容です。今や20億以上の作品にCCライセンスが付与され公開されるなど、一般著作権の代案としてのライセンスとして定着するに至りました。グローバル本部活動の他、50カ国で支部活動が行われています。

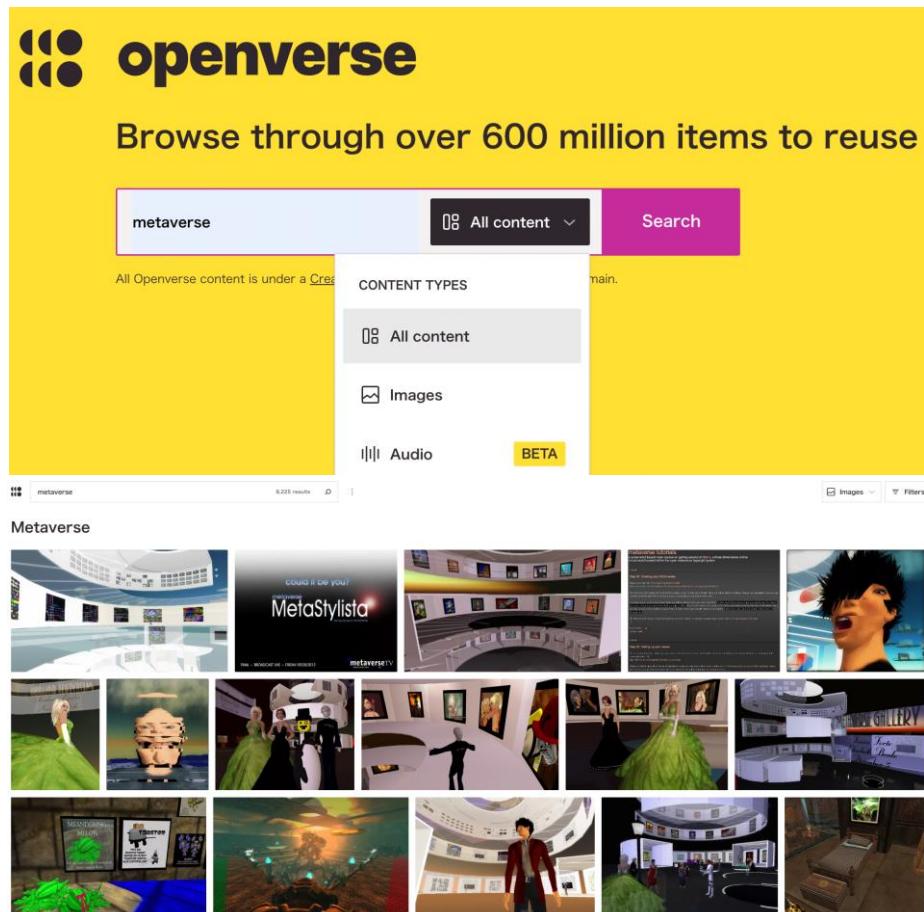
コロナ禍においてオンライン教育が普及し、CCライセンスが付与されたコンテンツが世界中で教材に利用されている事例が増大していることも報告されました。

<sup>5</sup> CC 2021 State of Commons :

<https://creativecommons.org/wp-content/uploads/2022/04/CC-2021-State-of-Commons-AR.pdf>

### 3. CC SearchがOpenverseに切り替え

CCライセンスが付与された作品を検索するツールである「CC Search」<sup>6</sup>のサーチエンジンが、WordPressと共同開発の「Openverse」<sup>7</sup>に切り替えられました。これにより、画像や音源を含む6億点以上のCCライセンスが付与された作品から、自由キーワード検索することができます。



<sup>6</sup> CC Search : <https://oldsearch.creativecommons.org/>

<sup>7</sup> Openverse : <https://wordpress.org/openverse/>

# III. NFTとシェア、クリエイティブ・コモンズ

執筆：CCJP理事長 渡辺智暉

2021年は、Beeple氏が自らの作品EverydaysをNFTとしてクリスティーズでオークションにかけ、高額で落札されたことが国際的なニュースになった年でもありました。日本人のアーティストの高尾俊介氏によるNFT、Generative Masksが販売されたことも美術界を含めた諸分野で話題になりました。EverydaysもGenerative Masksもクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで提供されている作品でした。

CCJPでは、ブロックチェーンやNFT、メタバースなどに仕事上関わっているメンバーがいることもあり、これらが著作権やシェア、ライセンスや創造活動や文化などとどのように関わるかについて月例の会合などの場で折に触れて話題にしてきました。

また、ブログでは2018年にBeeple氏の作品群Everydays等の紹介を含むBeepleへのインタビュー記事を翻訳・紹介<sup>8</sup>していました。

こうしたこともあり、2022年5月にはNFTをテーマに公開の勉強会を開催しました。「NFTの使い方と創作活動の未来」と題したこの公開勉強会では、CCJPメンバー2名による発表と、それに更に2名を加えた4名での討論などが行われました。

話題は多岐に渡りましたが、増田雅史からはNFTの取引と著作権や所有権などとの関係の曖昧さなど法的な位置づけについての指摘が、永井幸輔からはNFTにおいてシェアが占める重要性を示唆する多様な利用例の紹介と、その理由の分析、CCライセンスやCC0などの使い方についての議論などがありました。水野祐、渡辺智暉を交えたパネル討論では、例えば以下のような問い合わせについて意見が交わされました。

- ・NFTの法的な位置づけについて立法が必要か
  - ・CCライセンスやCC0は万人に開かれたシェアを想定して設計されているが、NFTはメンバーを限定したシェアのためにこうした手段を使っていることがある。これが法的に持つ効果はどのようなものか。
  - ・万人の参加を暗に前提とするオープンカルチャーと、メンバーシップとシェアの組み合わせが重要な役割を果たす一部のNFTのあり方とを比べた時に、それらをどう評価するか。
  - ・投機的な盛り上がりが多いNFTは、より実質的な可能性を持っているのか。
- いずれの論点についても登壇者の意見の不一致があり、この話題について様々な見方が可能であることが浮き彫りになる形だったと思います。



<sup>8</sup> Mike Winkelmann (別名: beeple)のアートとEvery Dayについて：

<https://creativecommons.jp/2018/11/04/mike-winkelmann-%e5%88%a5%e5%90%8d-beeple%e3%81%ae%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%83%88%e3%81%a8every-day%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6/>

イベントの様子は動画で公開されており、以下でご覧頂くことができます。

1. NFTについて概説します(増田雅史) <https://www.youtube.com/watch?v=G6I5Pu15cAU>
2. NFT with Open Culture (永井幸輔) <https://www.youtube.com/watch?v=DunpeJrCeyU>
3. パネル討論、質疑応答(増田雅史、永井幸輔、水野祐、渡辺智暉) <https://www.youtube.com/watch?v=kPZky0pTZ5k>

## I V. デジタル・アーカイブ分野の議論への参加

執筆：CCJP理事長 渡辺智暁

ここ4年ほど、CCJPではデジタル・アーカイブ分野を重点的に取り組むべき分野の一つと位置付けて、内部で議論を重ねたり、情報収集や議論への参加などをしてきました。

デジタル・アーカイブでCCライセンスが採用されている例は、世界各地で見つけることができます。他方、パブリックドメインに属しているはずの資料がCCライセンスで提供されている例も散見され、必ずしも理想的な使われ方だけが見られるわけではないことにも注目してきました。

この問題について国際的に議論する機会を持つべく、2021年度はCreative Commons Global Network のOpen Culture Platform にワーキンググループを設け、様々な国・領域の専門家、関心を寄せるメンバーと議論をしています。CCイタリアのDeborah De Angelis氏とCCJPの渡辺がCo-leadsを務め、Europeanaスタッフ、Creative Commons本部スタッフ、著作権法などの研究者、技術者、関連分野の実務家などを交えて議論を重ね、”PD BY”と称されることもあるようなCCライセンスの利用がどのような事情で起きているのか、どのような対策がどのような効果をもたらすか、などについて議論を重ねています。

渡辺が作成した中間まとめ案（英語。他のメンバーによる編集・コメント付）を以下でご覧頂くことができます。

[https://docs.google.com/presentation/d/19bU31C5YmHDxJ4Pze\\_dE1y03qlM0j1B8/edit](https://docs.google.com/presentation/d/19bU31C5YmHDxJ4Pze_dE1y03qlM0j1B8/edit)

## V. 「The Open Revolution」 日本語翻訳版を公開

執筆：CCJP事務局 豊倉幹人

2021年の9月に Rufus Pollock 氏による書籍「The Open Revolution」の日本語翻訳版を公開しました。

「The Open Revolution」ではあらゆる情報を「オープン」していくことが世の中を改善する糸口となると謳っています。この「オープン」の定義は曖昧ですが、情報を市民が所有し、かつ情報が自由にアクセス可能な状態で、そして情報の利活用の方法を市民が決定する状態と捉えてよいでしょう。情報が「オープン」であることの成功事例として、現在あるインターネットのプロトコルがRFCを通じて決定したことや、ヒトゲノムが自由にアクセス可能な形で公開されたことで研究が加速したことを挙げています。また技術や医薬品の特許など「オープン」にすることで改善可能であると筆者が考えている事例についても書かれています。本書の最大の特徴は「オープン」な社会を実現するための案として、

「Renumeration rights（報酬権）」を提唱しているところにあります。この仕組みは一言で言うと、分野ごとに基金を作りクリエイターはそこから分配金を受け取る、というもので、すでに存在するSpotifyなどのサービスとの比較も本の中で述べられています。

翻訳版の公開に合わせて2021年9月26日に記念イベントを行いました。こちらはオープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン主催、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン共催で「デジタル時代の価値創出の姿：『オープン・レボリューション』翻訳記念イベント」という名前でZoomにて開催されました。

イベントの冒頭にオープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン事務局長の東修作氏より開催あいさつをいただき、続いて The Open Revolution の著者である Rufus Pollock 氏のビデオメッセージの上映が行われました。その後にクリエイティブ・コモンズ・ジャパン事務局メンバーであり翻訳主担当である豊倉幹人から本のサマリー紹介が行われました。

サマリー紹介の後、本書に関する討論が行われ、多岐にわたる内容について様々な意見が交わされました。討論の前半部では、島根大学法文学部教授であり情報経済論の研究を行っている野田哲夫氏、シティライツ法律事務所、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事、弁護士である水野祐氏、国際大学GLOCOM研究員、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事長、オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン副理事長であり、本書の翻訳も行いました渡辺智暁氏にご参加いただきました。討論の後半ではThe Open Revolution の著者である Rufus Pollock ご本人にもご参加いただきました。

討論の中で出てきた主な議題は以下のとおりです。

- オープン化が制作者のモチベーションに与える影響
- ネットワーク効果を強める手段としてのオープン化
- オープン化とビジネスモデル

- データの扱い込み、プライバシーの問題
- 国際的な制度設計の問題
- オープン化における企業の役割
- 報酬権と著作者人格権
- NFTの可能性
- 政治への不信と市民運動

これからますます発展するであろう情報社会の制度設計についての可能性と課題を確認できた有意義な時間だったと思います。

イベントのアーカイブは以下のリンクより見ることができます。

<https://creativecommons.jp/2021/12/04/%e3%82%aa%e3%83%bc%e3%83%97%e3%83%b3%e3%83%ac%e3%83%9c%e3%83%aa%e3%83%a5%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%b3%e7%bf%bb%e8%a8%b3%e8%a8%98%e5%bf%b5%e3%82%a4%e3%83%99%e3%83%b3%e3%83%88/>

# V I. 会計報告と寄付のお願い

特定非営利活動法人（NPO法人）として東京都へ報告している会計報告の要約版と寄付のお願いです。

## 1. 会計報告

CCJPの母体組織である特定非営利活動法人コモンスフィアの2022年3月期の会計報告は以下の通りとなります。

2022年3月期 活動計算書サマリ

(単位：円)

科目	金額
I 経常収益	
1 受取会費	170,000
2 受取寄付金	10,000
3 その他収益	12
経常収益計	180,012
II 経常費用	
1 事業費	
イベント費用	10,000
通信費	44,375
報酬手当	55,000
経常費用計	109,375
当期正味財産増減額	70,637

## 2. 寄付のお願い

CCJPは「I. CCJPの概要と最近の活動報告」に記載したような様々な活動を行なっています。これらの活動は基本的にはボランティアによって行われていますが、より活発で広範な活動を行うため、皆様からのご支援をお願いしております。寄付を通じて私たちの活動をサポートしていただけたら有難いです。

集まった寄付金はCCJPの活動資金として、様々なプロジェクトの運営費等に使用させて頂きます。用途については事務局にご一任させていただければ幸いです。なお、コンピューターなどの機器や、イベントや会議のためのスペース提供等の様々な形でのご支援も歓迎しております。

また、グローバルCCでも寄付は受け付けておりますが、そちらはCCJPとは別会計となります。CCJPもグローバルCCからの資金援助を受けることも稀にありますが、CCJPとしての資金で活動することで、国内での活動を円滑に進めていけたらと思っております。

詳細はHP<sup>9</sup>に掲載していますのでそちらをご覧下さい。皆さまからのご支援をお待ちしております。

---

<sup>9</sup> CCJP HP 寄付 : <https://creativecommons.jp/donate/>